

	富岡委員	中島委員	古本委員	八ッ橋委員	米本委員
Ⅰ 文化事業 (1)	<p>【評価できる点】 旧大佛邸の記録保存のための調査、図面、動画の制作を行ったことは、今後の大佛研究および資料展示にも大きく寄与するものとして評価したい。 渋沢栄一（大河ドラマ）との関連展示も興味を引くものであった。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 新型コロナの感染防止対策をとりながら、可能なイベントなどは再開できればよい。</p>	<p>【評価できる点】 3つのテーマ展示それぞれが、大佛ファンはもちろん大佛次郎のことを知らない人にとっても興味・関心を引く内容になっており、大佛次郎について広める上で大変効果的なものになったと思います。 これからも大佛次郎や施設の認知度を向上させるために、こうしたコンテンツの性格を引き続き検討して行ってください。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 今回の取り組みにより見えてきた新たな利用者層について実施内容との関係などを改めて検証・整理し、時代とともに興味・関心に変化してきている利用者（潜在的利用者を含む）についてターゲットの明確化へとつなげ今後の活動へと活かしてください。</p>	<p>【評価できる点】 ・毎行われるテーマ展示は切り口がそれぞれに異なっており、来館者の興味をひくものとなっていたと思います。 ・謎解きイベントなど、幅広い世代の来館者が参加できる試みも良いと思いました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・今後も参加型、体験型のイベントが増えることを期待します。</p>	<p>【評価できる点】 ・旧蔵レコードのデジタル化、所蔵画像のデータ化、解説動画のYouTube公開、ホームページやSNSでの発信など、様々な側面で情報化を進めている点を評価します。 ・新規ブックレットの発売、ならびに通信販売が増加した点を評価します。 ・「ねこ写真展」が多くの新聞で紹介された点を評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・所蔵品のデジタル化、データ化が継続して進められることを期待します。 ・各種の情報発信が継続して行われる事を期待します。</p>	<p>【評価できる点】 ・大佛旧蔵品の新規受贈のほか、旧大佛邸の記録保存のための調査を実施し、図面や動画を制作したことは、作品、生活の両面から大佛を理解し、後世に伝えるために重要な取り組みだと評価できる。 ・他施設との連携や収蔵品の活用は、記念館のプレゼンスを高める効果的な取り組みだと評価できる。 ・「パリ燃ゆ」「文士は必ずカメラを持って」の2企画展で観覧者数実績が目標を上回ったことは評価できる。 ・継続的なブログ更新、インスタグラムやツイッターなどSNSを活用して積極的に情報発信したことは評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・新規受贈品の整理、活用。旧大佛邸の記録保存調査の継続を期待します。</p>
Ⅰ 文化事業 (2)	<p>【評価できる点】 コロナ禍でありながら商業撮影の件数が目標を上回ったことを高く評価したい。 ビブリオバトルその他の地域関連事業を積極的に企画・展開していることを高く評価したい。 また、ブログやSNSの活用も評価したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 YouTubeの活用（展示解説の公開等）は時代のニーズに合わせた活動として評価したいが、その具体的な作成について現場の職員や学芸員の負担が増えるのではないかと危惧するところである。 専門の業者の利用などはあるのか、YouTubeの質も重要なものとなっていることを考えると今後の作成の在り方等を検討していただきたい。</p>	<p>【評価できる点】 SNS等を活かしたプロモーションを積極的に展開し、大佛作品を知る機会を増やしていることを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 マスメディア、SNS、チラシなどターゲットごとにメディアの使い分けを意識し、更に利用者に届きやすい情報発信を進めてください。また、情報量をより多く伝えることが可能な動画配信は、記念館ならではの独自性をもったものになる可能性があり今後の展開に期待します。</p>	<p>【評価できる点】 ・SNSの有効活用等により、商業撮影の利用が増加したことを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価できる点】 ・女子美術大学付属中学と連携し、新規事業を実施した点を評価します。 ・茶会利用者へのインタビューを行い茶室使用の改善を図った点や、商業撮影の件数が目標を上回った点を評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・様々なニーズによる館内利用が、適切かつ安定的に行われることを期待します。</p>	<p>【評価できる点】 ・フォトウエディングなど商業撮影が増加し、ドラマロケにも使用されたことは記念館の存在感アップにつながる。 ・みなとみらいホールや和菓子店、ホテルニューグランドやポンパドゥルなどと連携を図ったことは評価できる。 ・未刊行資料の書籍化の準備を進めることは大佛文学の継承に大きな意義があり、評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・ドラマロケなどさまざまな媒体での露出をはかり、SNSも組み合わせで発信することでより多くの層に記念館をアピールしたい ・みなとみらいホールや和菓子店、ホテルニューグランドやポンパドゥルなど、今回連携を図れた横浜の名所、名店とのつながりを継続し、横浜ブランドの一角として記念館の認知度を高めたい</p>

	富岡委員	中島委員	古本委員	ハッ橋委員	米本委員
Ⅱ 施設 評価	<p>【評価できる点】 コロナ禍で貸室の利用向上のための工夫をしている点を評価したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価できる点】 室内装飾を適時行い施設のイメージアップが図れた点や、施設利用に係るサービス向上について丁寧に取り組んだことを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 在宅勤務の機会など、個人情報や館内情報の不用意な漏洩が発生しないよう心掛けてください。</p>	<p>【評価できる点】 ・コロナ禍にありながら、感染対策を徹底することで利用を拡大する取り組みが行われたことを評価します。 ・オリジナルグッズ等の販売について、展示を工夫し来館者の興味を引くような取り組みが行われたことを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価できる点】 ・レファレンス件数が目標を上回った点を評価します。 ・アンケート回収率の増加を図った点や、キャッシュレス決済を推進している点を評価します。 ・猫の日にあわせて新商品を発売することで、情報拡散を図った点を評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・テーマ展示や猫写真展などに関連して、さらに魅力的な商品開発が進むことを期待します。</p>	<p>【評価できる点】 ・猫の日に合わせて新商品の猫グッズを販売し、SNSで話題となるなど、SNSで反響を呼ぶタイミングを狙った取り組みは現在のマーケティングで欠かせない視点であり、評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>
Ⅲ 維持 管理	<p>【評価できる点】 施設の維持管理が行われ、施設運営が継続されていることを評価したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 建物・施設の劣化が進行している状況があり、個別の修繕で対応するだけでなく、時期を見て大規模修繕が必要になると思われる。そのための諸々の業務、修繕にかかる歳月、その間の休館に伴う職員等の給与保障、資料の管理、展示や普及事業の展開（アウトリーチ）、調査研究事業の継続など検討すべき課題がある。横浜市と指定管理者との信頼と情報共有が不可欠であると思われる。</p>	<p>【評価できる点】 初期対応により問題なく維持管理を進められたと思います。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 施設・設備管理は、日常点検の積み重ねです。些細な変化や事柄でも日誌等に記録し設置者と共有することで大きな問題になる前に解決が可能です。築40年以上の建物で経年劣化が進んでいる時期ですので、引き続き注意喚起をお願いします。</p>	<p>【評価できる点】 ・施設の老朽化は否めないものの、点検修繕が適切に行われており、清掃も行き届いて維持管理が良好に行われていると感じました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価できる点】 ・雨漏り対策を実施している点を評価します。 ・リモートツールを利用して、在宅勤務を実施した点を評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・経年劣化に合わせた適切な対応を期待します。</p>	<p>【評価できる点】 ・経年劣化による設備等の修繕点検を適切に行い、事故などを未然に防いでいることは評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・40年以上という築年数を考えると全体的な劣化は免れず、横浜市と連携した計画的な修繕を期待します。</p>
Ⅳ 収 支	<p>【評価できる点】 良好な収支バランスを達成していることを高く評価したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 助成金等の獲得に更なる努力を期待したい。</p>	<p>【評価できる点】 補助金の獲得を評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 出版負担金への支出など、今後の価値創出へつなげる費用の使い方を行っている点に期待が持てます。</p>	<p>【評価できる点】 ・コロナ禍で制限のある中、全ての項目で予算を上回る収入を達成できたことを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価できる点】 ・各種の補助金、ならびに助成金を獲得した点を評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・外部資金の獲得が継続することを期待します。</p>	<p>【評価できる点】 ・新商品効果もあり、ショップの売り上げが目標を上回ったことは評価できる。 ・計画以上の補助金や事業負担金を獲得し、充実した企画や施設運営を展開できたことは評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・引き続き補助金や事業負担金の獲得に努め、企画の充実に取り組むことを期待します。</p>

	富岡委員	中島委員	古本委員	八ッ橋委員	米本委員
その他					

	富岡委員	中島委員	古本委員	八ッ橋委員	米本委員
総括	<p>コロナ禍にもかかわらず展示・企画、施設運営その他に大きな努力と工夫がなされ、目標を達成していることを高く評価したい。</p> <p>記念館の中長期的なビジョン（大規模修繕など）を見据えて横浜市との連携を進めていただきたい。</p>	<p>大佛次郎記念館は文学館の性格を持った博物館であり、著者・著作資料をもとに市民へと文化的な価値を提供する施設です。今回の3つのテーマ展示は、様々な視点から取り組まれたことで新しい利用者層を発見することができたと思います。今後は利用者層ごとのマーケティング活動をさらに行い企画に活かし、市民にとっての利用価値を高めていってください。</p>	<p>・職員及び研究員のみなさんが、大佛次郎及び大佛次郎記念館の魅力を幅広い世代に伝えようと、様々な角度から事業を企画、実行されておられることに感服しました。</p>	<p>・新型コロナウイルスの影響が続く難しい状況でありながらも、切り口の異なるテーマ展示から新規顧客層へのアピールが行われたことを高く評価します。</p>	<p>補助金や事業負担金を獲得して企画の充実をはかり、横浜ブランドの店舗やホテルとも連携するなど、活動の幅を広げた一年だった。長引くコロナ禍にありながら、観覧者数を伸ばした企画展もあり、ウィズコロナの運営手法をつかみつつあるとも感じる。さまざまな分野にアンテナを張って記念館の存在感を高め、大佛文学を多くの人に知ってもらえるよう、今後も取り組みの幅を広げていくことを期待します。</p>

I文化事業目標(1)	評価項目	令和3年度計画		実施状況		実施状況
		指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	
1 作品、旧蔵資料及び関連資料の収集、保存及び展示公開	資料収集 大佛次郎関連資料の寄贈を随時受付し、情報収集に努め、適切な収集を行う。	■おさらぎ選書「資料収集」欄への掲載	実施	掲載準備を実施		・令和3年度 資料受け入れ 916点 ・旧大佛邸を記録保存するための調査を実施し、図面、動画を制作しました。
		資料保存 ・貴重な資料の管理や保護に注力し、自筆原稿等特に貴重な資料の管理に細心の注意を払う。所蔵資料を後世に継承するため、資料の劣化を防止良好な状態を保つ。温湿度管理の徹底と中性紙箱に収める等の方法で資料の保全を行う。	□収蔵庫・特別書庫の点検、調整、記録 ■特別書庫内使用の出入庫表への記録 □IPMIによる地下書庫の清掃と処置作業 □月1回の資料整理	日2回 実施 年2回 月1回	日2回 実施 年2回 月1回	B B
	・専門的な観点からの収蔵資料整理	■収蔵資料の整理	実施	実施		
		■収蔵品展等への活用	実施	実施		
	展示公開 (1)常設展(収蔵品展) 「大佛次郎の生涯と作品」にスポットを当てた収蔵品展を展示室で実施	■年間を通じて順次展示替えを実施	実施	実施		・ミニ特集コーナー「激流 渋沢栄一の若き日」と『天皇の世紀』コーナーで渋沢栄一を紹介
		■年3回の企画展に合わせた内容の更新	実施	実施		・テーマ展示に合わせて、歌舞伎、フランス4部作、猫コーナーの展示を入れ替えました。
	(2)愛蔵品展示コーナー 大佛次郎の交友関係に焦点をあて、関係する旧蔵資料等を愛蔵品展として記念室前展示コーナーで展示	□閲覧室前に展示	年1回	年1回展示替え	B	・9/27～開催中 「大佛次郎が父から受け継いだ一枚の油絵―明治期横浜の画家・五姓田義松」油彩画《江ノ島》を中心に据えて古き横浜に寄せた大佛の愛惜を紹介
	(3)1階ロビー展示 年表パネル・写真パネルの展示	■展示替	随時実施	通年実施		・テーマ展示「これぞ！大佛歌舞伎」の一環として、大佛歌舞伎年表を展示 ・女子美術大学附属中学校2年生による挿絵「猫のいる日々」139点を文章とともに展示 ・「大佛次郎×ねこ写真展2022」公募作品434点を展示
	資料公開(展示を除く) (1)閲覧室での図書閲覧	■閲覧室での図書の閲覧の実施	実施	実施		・展示関連書籍の面陳 ・大佛次郎賞受賞者のサイン本を展示
	(2)「おさらぎ選書」に目録を掲載	■「おさらぎ選書」に収蔵資料の一部を掲載				・「おさらぎ選書」第29集(令和6年度に刊行予定)に、収蔵資料を紹介するための準備に着手しました。
	(3)ホームページに収蔵資料目録を掲載	□新規に公開するデータ数	カリカチュア48点以上	80点	A	・新規カテゴリとしてパリ・コミュニケーション関連資料―カリカチュアの名称、作者名、説明文等を公開リストに登録。新規公開データ:80件
	(4)レファレンスサービスの充実	□レファレンスサービス対応件数	年50回以上	65件	A	・電話やメールによる問い合わせを含め丁寧に対応

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大佛旧蔵品など、900点以上を新規に受贈しました。 ・旧大佛邸を記録保存するための調査を実施し、図面、動画を制作しました。 ・収蔵資料の整理を進め、初公開の写真等を展示に活用できました。 ・大河ドラマで話題の渋沢栄一を、収蔵品展示のミニ特集コーナー「激流 渋沢栄一の若き日」と『天皇の世紀』コーナーで紹介し、作品閲覧や書籍販売につながりました。 ・愛蔵品コーナー「大佛次郎が父から受け継いだ一枚の油絵―明治期横浜の画家・五姓田義松」では、開港期の資料を活用することができました。 ・新カテゴリとして「パリ・コミュニケーション関連資料―カリカチュア」の名称、作者名、説明文等を公開リストに登録し、80件を新規公開しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規に受贈した資料の整理を進め、活用できるようにすることが必要です。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の収集、保存及び公開を適切に実施し、目標どおりに業務が遂行されました。貴重な資料の保存と継承に努め、またその展示公開を通じ横浜の文芸文化の発展に寄与したことを評価します。 ・旧大佛邸記録保存のための調査を行い、図面や動画の制作を行いました。貴重な資料を後世に残す取組を評価します。 ・レファレンスサービス件数は目標を上回っており、幅広い層に貴重な資料を提供しました。レファレンスサービスの充実により、広く資料や書籍を提供したことを評価します。 ・ホームページに公開する収蔵資料のデータ数が目標を上回ったことを評価します。 ・収蔵品の展示内容は、各テーマ展等と関連づけた内容となっており、来館者に興味を持ってもらえるよう工夫がなされていました。 ・企画展の他にも収蔵品の活用がなされました。日仏会館・フランス国立日本研究所との共催で収蔵品であるカリカチュアコレクションを用いた企画展を開催しました。また、神奈川県近代文学館や世田谷文学館等に貸出を行ったほか、テレビ番組への資料提供を行いました。閲覧室前に愛蔵品コーナーを設置するなど大佛の愛用品や貴重な資料等、多岐にわたる収蔵品を、多くの方に楽しんでいただくための手法を様々に模索し、実践したことでの活用の可能性を広げた点を評価します。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵資料の適切な保存及び公開に継続して取り組むとともに、資料のデータベースの参照のしやすさ等の観点からの収蔵資料の整理を推進していただくことを期待します。 ・オープンデータについてより汎用性のあるシステムの構築を検討していただき、データの活用につなげることを期待します。

I文化事業目標(1)	指定管理者提案(要旨)	令和3年度計画		実施状況	
		達成指標	目標	実績	チェック
2 作品及び大佛次郎に関する調査研究及び情報の集積	大佛次郎の作品等に関する調査研究成果の展示、出版、講座・講演等による社会への還元 (1)テーマ展示の実施	□テーマ展示の実施回数	3回	3回	B
		□観覧者数	15,500人	13,324人	-
	企画展(テーマ展示)の開催(年3回) (関連講演・講座等の開催、財団運営施設等の主催講座への出張含む) (1)テーマ展示1「これぞ！大佛歌舞伎」	□観覧者数	7,000人	3,895人	-
		■展示解説	各月第2土曜日	実施	
		■<ミニ・トーク～建築の魅力発見～>実施	各月第3土曜日	実施	
		■フオトスポット設置	実施	実施(内容変更)	
		■音声ガイド実施	実施	実施(内容変更)	
		□歌舞伎をテーマにしたブックレット制作	2種類	2種類(両刊とも増刷)	B
	(2)テーマ展示2 パリ・コミュニケーション150年記念「パリ燃ゆ～名もなき者たちの声」	□観覧者数	4,500人	4,862人	B
		■展示解説	各月第2土曜日	実施	
		■<ミニ・トーク～建築の魅力発見～>実施	各月第3土曜日	実施	
		■関連イベントで映画上映	実施	実施(内容変更)	
□テーマ「フランス」でのビブリオバトル開催		1回	1回(内容変更)	B	
■大佛とフランスゆかりの商品販売(追加)		実施	実施		
■日仏会館でのカリカチュア展示(追加)		実施	実施		
(3)テーマ展示3 写し、写された大佛次郎「文士は必ずカメラを持って」		■観覧者数	4,000人	4,567人	A
	■展示解説	各月第2土曜日	実施		
	□<ミニ・トーク～建築の魅力発見～>実施	各月第3土曜日	実施		
7「おさらぎ選書」の発行	■発行準備	実施	実施		

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「これぞ！大佛歌舞伎」では、現代にも受け継がれる「大佛歌舞伎」の世界にせまることで、歌舞伎ファンや舞台に関心の高い層を中心に、新たな関心層を呼び込みました。新収蔵資料の公開や歌舞伎をテーマにした謎解きを実施し、来場者の関心を高めることができました。会期中に緊急事態宣言が発出された影響で、観覧者数は目標を下回った一方で、WEB上で話題となり、ブックレットの通信販売が増加したために、2種とも増刷しました。 ・パリ・コミュニケーション150年記念「パリ燃ゆ～名もなき者たちの声」では、150年前に出版されたとは思えない、鮮やかな色彩を誇る資料と「パリ燃ゆ」文中から引用した大佛次郎の文章、そして展覧会のために作家の愛蔵盤から取り出したコミュニケーションゆかりの音楽が流れる会場で、目標を上回る観覧者を迎えました。文化庁「ARTS for the future!」の助成獲得によって展示内容を充実させ、資料約1,000点のデジタル化とデジタルサイネージでの画像公開を初めて行うことができました。また、フランス関係諸団体との交流を深めることで、記念館の存在をアピールすることができました。同時期に開催した日仏会館での「パリ・コミュニケーション150年 大佛次郎記念館カリカチュアコレクション」との相乗効果を生み出すことができました。 ・パリ・コミュニケーション150年を記念し、日仏会館・フランス国立日本研究所との共催により、東京・恵比寿の日仏会館で企画展を開催しました。カリカチュアコレクションの中から約40点、書籍等の資料約10点、解説、キャプションとともに日仏併記で展示しました。カリカチュア単体での展示としては、記念館が開館した1978年以来となる東京での出張開催となり、大佛次郎とフランスとのつながり、作品と収蔵資料の魅力、資料を有する大佛次郎記念館の存在を広く伝える機会となりました。 ・写し、写された大佛次郎「文士は必ずカメラを持って」では、初めて写真をテーマとし、同時代の写真家が捉えた大佛次郎と同時に、カメラ愛好家であった大佛がファインダー越しに切り取った世界を紹介しました。自筆原稿『日本の作家-林忠彦写真集』に寄せた「序」や、大佛が撮影した旅先の写真を初公開するとともに、市民ギャラリーあざみ野との相互連携により、カメラ・写真の愛好家を含めて広く周知しました。 同時開催「大佛次郎×ねこ写真展2022」と合わせて、“写真尽くし”の館内となりました。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、事業内容の変更等を行いながら、コロナ禍で可能な範囲の事業を着実に実施しました。館内の消毒や換気を丁寧に行い、観覧環境の整備に努めました。 ・テーマ展示「これぞ！大佛歌舞伎」では大佛歌舞伎の魅力伝える展示とともに現役歌舞伎役者に大佛次郎についてのインタビューを実施し、動画を作成し放映しました。また、謎解きイベントの同時開催や歌舞伎に寄せたブックレットの販売を行う等、幅広い層の方に楽しんでいただけるよう工夫を凝らした事業を実施しました。 ・テーマ展示「パリ燃ゆ～名もなき者たちの声」はパリ・コミュニケーション150年に合わせて開催されました。デジタルサイネージを使用した展示を行う等新たな展示手法を取り入れました。この企画展に合わせ日仏会館・フランス国立日本研究所との共催で、東京・恵比寿の日仏会館でカリカチュアコレクション等展示する出張企画展を開催しました。他施設との連携を深めるとともに収蔵品の活用を促進する取組を評価します。 ・テーマ展示「写し、写された大佛次郎「文士は必ずカメラを持って」は毎年恒例の「ネコ写真展」と同時期の開催となり、華やかな展示となりました。当時貴重であったカメラ本体や大佛自身が撮影した写真の展示等で来館者を楽しませました。企画展の観覧者数が目標を上回った点を評価します。 ・同時期に写真、カメラ関連の企画展を開催した市民ギャラリーあざみ野と広報の相互連携を図りました。カメラ愛好家等に向けた効果的な周知を行いました。 ・各テーマ展ともに、それぞれの切り口から、大佛次郎という作家の魅力を伝える内容となっていました。新型コロナウイルス感染症対策を行うとともに、収蔵品の展示環境への配慮をしながらの開催となりました。状況に合わせたきめ細やかな対応により、来館者の方が展示を楽しむ環境を提供した点について評価します。 ・継続したブログの更新や、InstagramやTwitterなどのSNSを活用し、積極的な情報の発信を行ったことを評価します。 ・YouTubeでの展示解説公開など、コロナ禍における利用者サービスを積極的に行った点を評価します。

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和3年度計画		実施状況		実施状況		評価		
I文化事業目標(1)	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	チェック	説明		自己評価	行政評価	
2 作品及び大佛次郎に関する調査研究及び情報の集積	8 所蔵資料を用いた書籍・論文等の活用実績(書籍の閲覧室での公開、受付での販売の実施)	■ブックレットの継続販売と新規ブックレット2種の発売(再掲)	実施	実施		・テーマ展示「これぞ！大佛歌舞伎」に合わせて、ブックレット2種歌舞伎エッセイ集 I「海老さんのこと」II「吹切れる」を新規に発行。既刊と合わせて6種の販売を行いました。		<p>・展示、刊行、イベントの話題性を持った発信に注力し、メディアに取り上げられました。</p> <p>・展示の様子や時候に合わせた作品の引用などタイムリーな情報をブログ、Twitter、Facebook、Instagramで発信。記念館や公園の風景、ねこや花など周辺の様子を紹介し、着実にフォロワーを増やしました。</p> <p>【課題】</p> <p>・大佛次郎や近現代文学に加え、テーマ展示ごとのジャンルに関心を持つ層に向けた発信の工夫を続けていきます。</p> <p>・SNS間の連動による、より効果的な発信方法を検討します。</p>	<p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響が今後続くことを想定し、引き続きSNSの発信や動画の配信等、記念館としての情報発信の方法の検討を期待します。</p> <p>・本年度は緊急事態宣言により臨時休館等があった昨年度と比較すると、来館者が増加しました。ICT活用を推進するとともに実展示等の事業内容を充実させる取組に期待します。</p> <p>・展示解説、建物ミニ・ミニ・トークは、来館者へより展示等の内容を深く理解し、興味を持ってもらうために有効な手法と考えるので、継続しての実施と定着に期待します。</p>	
		□テーマ展を中心に記者発表	年4回以上	14回	A	・展示、イベント、刊行など計14回実施				
	情報の集積と発信 (1)一般紙誌の掲載につながる話題の提供と積極的な働きかけ。	□WEB媒体に強いPRタイムスによる発信	年5回以上	14回	A					
	9 (2)ウェブ紹介による来館の動機づけ	■フェイスブック、ツイッターを使ったタイムリーな情報発信	実施	実施		・ホームページ、ブログ、Twitter、Facebook、Instagramいずれも目標を上回りました。				
		□公式ホームページ情報更新	月3回以上	月5回	A	・本年度はTwitterのフォロワーが約200名増加しました。				
		□ブログ更新回数	月5回	月7回	A					
		□Facebookでの発信	月5回	月7回	A					
		(3)ブログやSNSを用いたタイムリーな発信	□Twitterでの発信	月20回以上	月82回	A				
			□Instagramでの発信	月10回以上	月24回	A				
			□メールニュースの配信	年5回以上	5回	B				
■記念館、ねこ、花、公園、周辺施設・行事の話題を幅広く取り上げ	実施		実施							

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和3年度計画		実施状況		実施状況		評価	
I文化事業目標(1)	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	チェック	説明		自己評価	行政評価
3 各種文化的行事の実施	各種文化的行事による大佛次郎及び作品の普及啓発 (1)大佛次郎文学をテーマにしたウォーキングイベント	<input type="checkbox"/> 生家やゆかりの地をめぐる「横浜文学ウォーキング」の開催	年1回	中止	-	・新型コロナウイルス感染症の影響により中止		【成果】 ・新型コロナウイルス感染症の影響で中止、延期となった事業がある中で、感染予防に配慮して実施した「大佛次郎賞記念講演会」は、目標を上回る参加者が集まり、熱心に聞き入りました。 ・「大佛次郎研究会公開発表会」では、大佛次郎とつながりのある講師から、当時の貴重な話を聴くことができました。 ・和室公開は、桜や紅葉とともに、お香漂う和室の魅力を感じられると好評でした。秋の公開では、開催中のテーマ展示と連動し、ギャラリーの展示が難しい屏風「パリ鳥瞰図」を展示しました。 【評価できる点】 ・大佛次郎及び作品の普及という目的のため、きめ細やかな調整を重ねて、満足度の高い企画を実現したことを評価します。 ・「大佛次郎賞記念講演会」はコロナウイルス感染症対策に配慮し、人数制限を設けたうえで開催となりましたが、来場者は目標を上回りました。 ・和室公開では和室の魅力をPRするため演出に工夫を凝らしたことを評価します。SNSを使用した効果的な周知を行うとともに、テーマ展に寄せた屏風の展示を行うなど和の空間を生かした魅力的な事業を展開しました。 ・ビブリオバトル事業の内容について、ツアールビブリオとの合同企画として、他施設と連携し大人ビブリオバトルを開催しました。オンラインでの開催となり、遠方の方の参加が可能となったことで新たな参加者層との交流が生まれ、内容の拡充につながりました。連携先と参加対象者の幅が広がったことを高く評価します。 ・夏休み子どもアドベンチャーは中止となりましたが小学生向けに横浜市芸術文化教育プラットフォーム教育プログラムとし「朗読と音楽」をテーマとした事業を実施しました。本年度新たに女子美術大学附属中学校と連携事業を行いました。生徒が大佛次郎著「ねこのいる日々」を読み、描いた挿絵を記念館のロビーに作品を展示しました。生徒それぞれの感性が光る作品が展示され、来館者を楽しませました。 ・例年好評の「ねこ写真展2022」は、本年度新たに子ども部門を設けました。来館に加え、SNSで作品の情報発信を行うとともに作品の人気投票に参加できる仕組みにより広く周知を図りました。ねこの日に合わせねこグッズの販売や謎解きイベントを開催するなど同企画展を盛り上げました。 【より一層の取組を期待する点】 ・今後の事業展開の検討にあたっては、既存の枠組のみに捉われない切り口の事業を展開する等、引き続き新しい発想で企画・立案をしていただくことを期待します。	
		<input type="checkbox"/> 参加者数	10人/定員12人	-	-				
		<input type="checkbox"/> 開催数	年1回	年1回	B	・感染症対策をしながら、第47回大佛次郎賞受賞記念講演会 精神科医・内海健「金閣炎上—理性と狂気の出会い」を開催しました。			
	(2)大佛次郎賞記念講演会 朝日新聞社との共同主催で、大佛次郎賞受賞記念講演会を開催	<input type="checkbox"/> 参加者数	160人(定員50%基準)		209人	A			
		<input checked="" type="checkbox"/> 準備のための施設提供および資料作成協力	実施	実施	実施		・5月21日(金)の予定を11月26日(金)に延期し「大佛次郎と歌舞伎」をテーマとして1回開催しました		
		<input checked="" type="checkbox"/> ちらし・当日資料作成代行および広報協力	実施	実施	実施				
	(3)大佛次郎研究会公開発表会	<input checked="" type="checkbox"/> 共催として当日運営サポート	年1-2回	年1回	年1回	B			
		<input type="checkbox"/> 和室公開 春・秋に和室を公開し桜・紅葉の景色を来館者に楽しんでもらい、和室の魅力をPR	年2回	年2回	年2回	B	・秋の和室公開時には、開催中のテーマ展示 パリ・コミュニケーション150年記念「パリ燃ゆ～名もなき者たちの声」と連動し、屏風「パリ鳥瞰図」を展示。		
		<input type="checkbox"/> ブログで発信	年4回以上	ブログとSNSで年11回	年11回	A	・窓外の桜や紅葉、室内の様子を、ブログ、Twitter、Instagramで発信		
	施設及び山手エリアの活性化 (1)和室公開(年2回)	<input checked="" type="checkbox"/> テーマ展示毎の茶亭の展示コーナーの展示替え	(茶亭公開終了)						
		<input checked="" type="checkbox"/> 公開日に会場での書籍・グッズ販売の実施および施設パンフレットの配布	(茶亭公開終了)						
	(2)ビブリオバトル・シリーズ開催	<input type="checkbox"/> 第9回ミニ・ビブリオバトル開催	年1回	年1回	年1回	B	・ミニ・ビブリオバトルは、会議室にアクリル板を設置し、感染防止に留意しながら開催		
<input type="checkbox"/> 参加者目標		6名		7人	A				
<input type="checkbox"/> 中高生ビブリオバトル開催		年1回	年1回	年1回	B	・中高生オンラインビブリオバトルは、新型コロナウイルス感染症の影響で学校行事が変更されたため、参加者が目標を下回りました。			
<input type="checkbox"/> 参加者目標		6名		4人	C				
<input type="checkbox"/> 大人ビブリオバトル開催 テーマ「フランス」(再掲)		年1回	年1回(内容変更)	年1回	B	・「ツアールビブリオ」とのコラボレーション企画として、鎌倉市 鶴木清方記念美術館と連携し、テーマ「古都」で開催 ・緊急事態宣言延長のため、オンライン開催に変更			
<input type="checkbox"/> 参加者目標		6名		6人	B				
子ども対象事業の実施 (1)夏休み子どもアドベンチャー	<input type="checkbox"/> 開催回数	年1回	中止	中止	-	・夏休み子どもアドベンチャーは新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から主催者判断により中止			
	<input type="checkbox"/> 参加者数(各日2回、定員10名)	28人		-	-	・小学生向け企画として、横浜市芸術文化教育プラットフォーム教育プログラム 1校(朗読と音楽)実施し、96名が参加しました。			
	<input checked="" type="checkbox"/> 横浜市芸術文化教育プラットフォーム教育プログラム(追加)	実施	実施	実施		・女子美術大学付属中学校2年生による挿絵「猫のいる日々」139点を展示			
【課題】 ・夏季、冬季の誘客は、今後も積極的に行う必要が感じられます									

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

I 文化事業目標(1)	評価項目 指定管理者提案(要旨)	令和3年度計画		実施状況		実施状況 説明	評価	
		達成指標	目標	実績	チェック		自己評価	行政評価
3 各種文化的行事の実施	(2) 感想画展等、小中学生無料化に伴う、親子の来館を促す企画の実施	□実施回数	(年1回、全4回)	中止	—			(評価は前ページに記載)
	(3) ミュージアム・ミッションへの参加による来館者増	■県博物館協会主催ミュージアム・クイズラリー2021に参加	実施 WEBIによる開催	実施 WEBIによる開催		・新型コロナウイルス感染防止のためWEBの特設サイトでのクイズ出題形式で開催		
	その他の事業 観光客や新規来館者を呼びこむ企画 「大佛次郎×ねこ写真展2022」の実施	□開催回数	年1回	年1回	B	・こども部門を新設 ・本年度から応募写真に付けられた18文字のコメントを写真とともに展示しました。これにより来館者等と応募者とのコメント等を通じた交流を促進しました。 ・プレスリリースやSNSでの積極的な発信により、新聞12紙で紹介されるなど広く周知しました。 ・来館での人気投票に加え、Twitter、Facebook、Instagramに写真を毎日アップし、イイね!による投票を受けました。 ブログでは「あおむけポーズ編」「かぶりもの&コスプレ編」などにまとめて作品を紹介 ・猫の日に、新作オリジナルグッズ「猫飼好五十三疋ポストカード」(3種)を発売		
		□入館者数	3,900名	5,120人	A			
		■ねこグッズの販売	実施	実施				
夏休みお楽しみキャンペーンの実施(追加)	■夏休みお楽しみキャンペーン(追加)	実施	実施		・館内を巡るねこクイズや謎解き特設問題の回答で缶バッジ、和装来館やアンケート回答で絵葉書をプレゼントしました。			

I 文化事業目標(2)	評価項目	R3年度計画		実施状況		実施状況
		達成指標	目標	実績	チェック	
4 施設の有効活用及び文化団体等への活動の場の提供	記念館の雰囲気や建物の魅力を生かした利用の誘致 (1) 茶会の和室利用促進	■茶会利用時のSNS紹介	実施	中止		・茶会利用者にインタビューを行い、備品の置き場を変更 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、SNSでの紹介やクリスマス茶会は中止
		■茶会利用者へのインタビュー実施により使い勝手の改善	実施	実施		
		□クリスマス茶会実施	年1回	中止	-	
	会議室、和室の利用促進 建物の魅力を活かした撮影利用や、展示利用等を誘致します (1) ウェディング撮影	■ウェディング撮影を近隣のホテルや結婚式場と連携し誘致	実施	実施		・ウェディング撮影、ウェディングモデル撮影の利用 9回 ・撮影の様子をTwitterで紹介 ・ホームページに撮影利用のご案内を画像付きで掲載しました。
		■ホームページ、SNSでロケーションフォトの様子を発信	実施	実施		
	(2) ドレス撮影	□ドレス撮影会・着物撮影等商業撮影の利用実績	年5回以上	18回	A	・ドレス・着物撮影等は目標を上回りました。 ・ホームページに撮影利用のご案内を画像付きで掲載しました。
	(3) 学校等の利用促進 ボランティアへの会議室の減免提供、小学生ミニ・ピブリオバトル参加校への会場としてのサロン提供	□小学校内ミニ・ピブリオバトルの会場提供	1校	中止	-	・新型コロナウイルス感染症予防の観点から、当初、サロンでの開催を予定していたが、広い場所で開催できる校内に変更
	(4) 研究者団体への場の提供 大佛次郎研究会、フランス経済史研究会の活動支援	■大佛次郎研究会発表会を共催し、施設利用へ協力	実施	実施		・公開発表会準備のための施設利用協力 4回 ・研究団体に対し、テーマにそった資料を提供
	(5) 市民文化団体への場の提供 天皇の世紀を読む会の活動支援	■レファレンスへの協力	実施	実施		
	(6) その他	■撮影等、特徴ある利用実績をSNSで紹介し、利用の提案とする	実施	実施		・撮影、展示等特徴ある利用を、Twitterやブログで写真を交えて紹介
		■主催または共催で、会議室の連続利用につながる事業の開催	実施	実施		・記載の通り実施
	リピート利用に向けた方策 (1) 和室、会議室での附帯設備導入等による利便性向上	■附帯設備について積極的に広報	実施	中止		・新型コロナウイルス感染症予防のため附帯設備の一部を貸出停止し、積極的な広報は見合わせました。
	(2) 会議室での自主事業の実施	□関連事業やイベントで活用	年1回	年2回	A	・和菓子教室、ミニ・ピブリオバトルで会議室を活用
	(3) 会議室の利用者の意見を聞き設備面・サービス内容等を改善。	■アンケート箱を設置	実施	実施		・記載の通り実施
	(4) ホームページでの情報提供。	■ホームページの「和室・会議室空き状況」ページの円滑な運用	実施	実施		・記載の通り実施
ティールーム「霧笛」との連携 (1) 相互割引の継続実施及び団体利用客への霧笛紹介。	■優待券を利用した相互割引の継続	実施	実施		・記載の通り実施	
	■団体客や貸館利用者へティールームの利用の案内	実施	実施		・和室・会議室の利用案内表に相互割引やケータリングの情報を掲載しました。	
(2) 記念館活性化プロジェクトで開発されたメニューの継続販売。	■夏季限定大佛フラッペの提供	実施	実施		・記載の通り実施	
(3) 広報協力 当館広報物への情報掲載等の実施 企画との連携メニュー等の相互の活性化に向けた協議	■ホームページで情報の継続掲載	実施	実施		・ホームページでの喫茶情報掲載の継続 ・Twitterで営業日時を周知しました。	

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォトウェディングの増加などにより、商業撮影の件数は目標を上回ることが出来ました。また、ドラマロケにも使用されました。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で研究団体や市民団体の活動が縮小しましたが、大佛次郎研究会公開発表会は、2年ぶりに開催することができました。 ・ティールーム霧笛は営業日時が変則的だったため、Twitterで営業情報を周知しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き感染症予防を徹底しながら、利用を促進していきます。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影利用が目標を上回る実施回数となったことを評価します。撮影体験の情報をSNSで発信することに加え、スタッフによる積極的な広報活動の結果、建物の魅力を活かした施設の利用促進に取り組むことができました。 ・研究団体への協力事業として大佛次郎研究会の発表会等の活動を支援しました。前年度は発表会が中止となっていました。2年ぶりの実施に協力しました。 ・会議室を利用し、和菓子教室等の自主事業を実施するなど貸室の活用を促進する取り組みを行いました。 ・コロナ感染症対策の観点から、事業の内容変更や場所の変更がありました。柔軟な対応をした点を評価します。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物が持つ魅力等、施設のポテンシャルを活かし、大佛次郎記念館に興味を持つことに繋がるような活動に、引き続き積極的に取り組むことを期待します。

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R3年度計画		実施状況		実施状況	
I 文化事業目標(2)	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	チェック	説明	
5 市民協働及び地域とのネットワーク構築	近隣教育機関との連携	■チラシ配布、ポスター掲示等で日常的な協力関係を構築。小学生ミニ・ビブリオバトル等の子ども対象事業への参加を呼びかけ。	実施	実施		・ミニ・ビブリオバトルや「大佛次郎×ねこ写真展2022」こども部門への参加を呼びかけました。	
		■高等学校や大学にもちらしやポスター掲示の依頼	実施	実施		・中高生ビブリオバトルでの協力 ・女子美術大学付属中学校2年生による挿絵「猫のいる日々」139点の展示	
		■近隣中学高校にビブリオバトルの呼びかけ	実施	実施		・記載の通り実施	
		■女子美術大学付属中学校2年生による挿絵「猫のいる日々」(追加)(再掲)	実施	実施		・記載の通り実施	
		■近隣小学校でデモ・ビブリオ実施(追加)	実施	実施		・デモ・ビブリオバトル学校を、元街小、北方小、間門小の3校で実施	
	近隣施設等との連携 (1) 横浜山手芸術祭への参加	□横浜山手西洋館ユースギャラリーへ参加し、北方小学校児童作品展示	年1回	中止	-	・主催者判断により規模を縮小し、当館での展示は見合わせ	
	(2) 山手西洋館(横浜市緑の協会)との連携	□横浜山手西洋館ハロウィンウォークへの参加	年1回	中止	-	・ハロウィンウォークは主催者判断により中止	
		□山手西洋館クリスマスイルミネーションとの連携	年1回	年1回	B	・西洋館各館の行うクリスマス・デコレーションに合わせ、玄関とサロンにクリスマス・デコレーションを行いました。	
		□山手通信への情報掲載	年6回	年5回	B	・発行者都合により1回休刊	
	(3) 県立神奈川近代文学館との連携	■観覧者の相互割引実施	実施	実施		・記載の通り実施	
近隣商店街等との連携 (1) 元町商店街、ホテルニューグランド、霧笛楼、美濃屋あられ製造本舗、香老舗松栄堂等の連携	■ねこ写真展賞品、クリスマス茶会、和室公開への協賛依頼	実施	実施		・「大佛次郎×ねこ写真展2022」ご協賛 6社		
	□近隣商店との共催イベントを企画・開催	年1回	年1回	B	・元町香炉庵の協力で和菓子教室を実施		
(2) ポンパドウルに、大佛次郎記念館活性化プロジェクトから生まれた商品の販売継続を働きかける。	■冬季限定「ピコリキュールのごほうびサバラン」継続販売を働きかけ	実施	実施		・継続販売		

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣3小学校でデモビブリオバトルを実施、女子美術大学付属中学校と新規事業実施など、学校との連携を推進しました。 みなとみらい線1日乗車券の団体割引新規提携、近隣商店や施設でのポスター掲示など、地域との連携を深めることができました。 みなとみらいホール共催のサロンコンサートでは、若手ジャズ奏者を迎え、音楽を身近に楽しめる企画を実施しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制限されても、関係団体と継続的な関係を維持することが必要です。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ビブリオバトルの開催に積極的に取り組みました。本年度は近隣の小学校3校でデモ・ビブリオバトルを開催しました。地域連携を深めつつ子どもの読書推進の一旦を担う事業を行っている点を評価します。 新たな学校との連携事業を実施しました。連携校及び事業の幅が広がったことを評価します。 みなとみらいホールとの事業連携や、元町香炉庵協力による和菓子教室の開催など継続した連携関係を構築し新規事業を実施したことを評価します。また、ホテルニューグランドやポンパドウルとの連携についても、大佛次郎記念館に関連した商品の継続販売という協力を得ることができました。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため多くのイベントの延期や内容の変更等がありました。イベント等で連携した団体と関係を継続し、状況に合わせた活動や企画の検討を行うことを期待します。

I 文化事業目標(2)	評価項目	R3年度計画		実施状況		実施状況	評価	
		指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績		チェック	説明
5 市民協働及び地域とのネットワーク構築	(3) 近隣ショップにポスターの相互掲示を依頼	■割引券配布・ポスター、ちらし相互掲示	実施	実施			・記載の通り実施	自己評価 行政評価 (評価は前ページに記載)
		□ポスター掲示	2店舗以上	7店舗	A		・近隣商店、保育園などに掲示	
	(4) 横浜高速鉄道(株)等との連携	■元町・中華街駅構内ポスター掲示	実施	実施			・記載の通り実施 ・みなとみらい線1日乗車券の団体割引新規提携	
		■横浜市交通局みなとぶらりチケットの団体割引適用	実施	実施				
		■みなとみらい線1日乗車券の団体割引適用(追加)	実施	実施				
	(5) ホテルニューグランドとの連携 大佛次郎ゆかりの「天狗の間」宿泊プランの継続を働きかける。	■宿泊プランの継続を働きかけ	実施	実施			・記載の通り実施	
	20 研究者団体の文化活動への場の提供	■大佛次郎研究会及びフランス経済史研究会との施設及び資料利用に関する協定継続	実施	実施			・大佛次郎研究会との覚書による協力関係を継続	
	21 財団施設との連携	□財団他施設と連携しサロンコンサートを開催	年1回	年1回	B		・横浜みなとみらいホールと連携し、第1部 レコード試聴～ジャズの名盤を聴く～、第2部 サックスとベースによるジャズコンサートを開催	
	市民協働 (1) NPO法人横浜シティガイド協会への働きかけ	■相互協力契約の継続	実施	実施			・記載の通り実施	
		■ちらしの定期送付	実施	実施			・記載の通り実施	
22 (2) 記念館ボランティア組織編制 展示作業、イベント開催のお手伝い依頼	■ボランティア組織の稼働	実施	実施			・大佛次郎賞受賞記念講演会に、ボランティアの協力を得ました。		

I 文化事業目標(2)	評価項目	R3年度計画		実施状況		実施状況 説明
		達成指標	目標	実績	チェック	
6 広報・プロモーション活動等の推進	指定管理者提案(要旨) 広報よこはま、地域のタウン誌、新聞紙面等による広報活動を継続。またSNS等を活用したプロモーション活動を行う。 (1)記念館年間スケジュールチラシ(紙)の配布 (2)山手通信(紙)へのイベント情報提供 (3)イベントちらし(紙)の作成 (4)ヨコハマ・アートナビへの掲載 (5)新聞等掲載 市政記者発表、広報よこはま中区版への情報掲載依頼、タウンニュース中区・西区版への情報提供の実施	□4か月スケジュール発行	年3回 各回6,000枚	年3回 各回6,000枚	B	・記載の通り実施 ・記者発表を積極的に行い、目標を上回りました。
		□情報提供(再掲)	年6回	年5回	B	
		□イベントちらしの作成	年5回以上	8回	A	
		□WEB版ヨコハマ・アートナビへの情報掲載	年5回以上	14回	A	
		□テーマ展・ねこ写真展等の記者発表(再掲)	年4回以上	14回	A	
	24 大佛次郎及び記念館紹介ビデオの放映	■紹介ビデオをロビーで着席鑑賞	実施	実施		・記載の通り実施
	ホームページを通じた情報発信及びSNS、ITを活用したプロモーションの実施 (ホームページ、ブログ、Facebook、Twitter、ヨコハマ・アートナビ、ヨコハマ・コードモアートナビ等を活用)	□ホームページ情報発信(再掲)	月3回以上	月5回	A	・ホームページやSNSで積極的に発信し、目標を上回りました。
		□ブログ・フェイスブック発信(再掲)	月5回	月7回	A	
		□Twitter発信(再掲)	月20回	月82回	A	
		□Instagram発信(再掲)	月10回	月24回	A	
□メールニュース配信(再掲)		年5回以上	5回	B		
26 CATV等での情報発信	□TV・ラジオからの情報発信	年3回以上	17回	A	・目標を上回りました。	
27 その他の工夫	■テーマ展示でWi-FiとYouTubeを活用した音声ガイドを提供(再掲)	1回	2回	A	・解説動画を2回Youtubeで公開	

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ展示Ⅱの解説動画公開、ブログやSNSでの展示紹介と、外出を控える方にも展示を楽しんでいただける機会を作りました。 ・SNSで時節に合わせた作品の引用を紹介し、大佛作品を知る機会を広げました。 <p>【課題】</p> <p>引き続き積極的に情報発信を行います。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシの配架など広報活動を積極的に推進したことを評価します。連携先や近隣の学校や企業に広報を行うことで、事業の連携先の拡大や多様性のある企画立案につながりました。 ・ブログやSNSを通じた情報発信が活発に行われました。SNSの特徴に合わせて発信の手法なども研究し、より多くの方に記念館の情報が届くよう工夫を凝らしました。TV・ラジオからの情報発信が目標を達成したこと等、積極的な広報及びプロモーション活動を推進したことを評価します。 ・コロナ禍での展示観覧としてYouTubeに展示解説動画をアップするなど来館が難しい利用者に対する事業を実施したことを評価します。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・YouTubeでの展示解説の公開や、企画展に寄せたオリジナルビデオの上映は利用者サービス向上に資すると考えられますので継続すること期待します。 ・これまで培ってきたブログやSNSといったツールの活用のノウハウをより積極的にプロモーション活動に活かすことを期待します。

I 文化事業目標(2)	評価項目 指定管理者提案(要旨)	R3年度計画		実施状況		実施状況 説明
		達成指標	目標	実績	チェック	
7 後世に継承するための記念館の活性化	大佛次郎作品の刊行協力等、大佛作品を読める環境整備 (1)既刊の販売協力	■「500匹と暮らした文豪 大佛次郎と猫」をはじめ自著や関連書籍の販売協力と普及	実施	実施		・小学館「500匹と暮らした文豪 大佛次郎と猫」など、著作や関連書籍を販売しました。
		■戦中戦後日記ほかの書籍化に向け関係者と進捗を調整	実施	実施		
		□テーマ展示に合わせてブックレットの制作・発行(再掲)	2種	2種類(両刊とも増刷)	B	
	フランス関連資料の活用 (1)企画展や常設展内展示コーナー等での展示	■収蔵品展で展示活用	実施	実施		・記載の通り実施
		■テーマ展示Ⅱで活用	実施	実施		・テーマ展示Ⅱと、日仏会館の展示で活用(再掲)
	(2)横浜フランス月間への参加	■収蔵品の中からフランス関連資料を紹介するミニ展示で参加	実施	実施(内容変更)		・横浜フランス月間が主催者判断により11-12月に変更されたため、テーマ展示Ⅱ「パリ・コミュン150年記念「パリ燃ゆ～名もなき者たちの声」」で参加
		■ミュージアムミッション2021・ハロウィンウォーク2021への参加	実施	実施		・ミュージアムミッションはWEB開催、山手西洋館ハロウィンウォークは主催者判断により中止
	31 「大佛次郎記念館活性化プロジェクト」成果継承	■ボンバドウル、ティールーム霧笛での企画商品販売継続働きかけ(再掲)	実施	実施		・記載の通り実施
	32 子どもたちが記念館に集う取組(再掲)	「3 各種文化的事業の実施」及び「5 市民協働及び地域とのネットワーク構築」記載内容と同				・記載の通り実施
	記念館オリジナルキャラクター「くらまくん」の活用による記念館のイメージアップ	■「鞍馬天狗シリーズ」復刊を記念した缶バッジ配布キャンペーンの継続	実施	実施		・記載の通り実施
		■イベント参加者にくらまくん絵葉書または缶バッジプレゼント⇒オリジナルねこ缶バッジまたは絵葉書プレゼント	実施	実施		・イベント参加者にオリジナルねこ缶バッジまたは絵葉書プレゼント
		■夏休みお楽しみキャンペーン(追加・再掲)	実施	実施		・館内を巡るねこクイズ等の夏休みお楽しみキャンペーンを実施(再掲)
34 スタッフの展示案内によるリピーターの確保	□団体入館者に対する解説	年10回以上	32回	A	・団体入館者に声がけし、解説実施回数は目標を大きく上回りました。	
	□テーマ展示のミニ解説実施	年10回以上	11回	A		
	□建物に関するミニ解説実施	年10回以上	11回	A		
35 愛猫家の側面に着目した、猫を活かした企画展開(再掲)	「3各種文化的事業の実施」記載内容と同				・記載の通り実施	
36 収入増及び健全な財務体質の実現に向け、個別事業評価システムによる自己評価、文学懇話会(会員構成:メディア・有識者等・市)の意見、年次評価等を活用したPDCAサイクルの構築	■個別事業評価システムによる自己評価の実施(計画書に記載なし)	随時実施	実施		・記載の通り実施	
	□文学懇話会の開催	年1回	年1回	B		
	■年次評価の実施(自己評価、行政評価、外部評価)	実施	実施			

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未刊行資料の書籍化に向けて準備を進めることができました。また、絶版書籍の新装版編集に協力し刊行の目途を付けることができました。 ・パリコミュン150年記念に、資料を活用した展示を館内外で実現することができました。 ・キャンペーン実施や団体入館者への働きかけなど、お客満足度を高める工夫を行いました。解説実施回数は目標を大きく上回りました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書籍の復刊働きかけは、継続的に行う必要があります。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ展示に合わせたブックレットの発行や、未刊行資料の発行について調整を進められた。大佛作品を後世に伝え、作品を読んでもいただける環境の維持に努めた点を評価します。 ・新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、展示解説を積極的に行いました。状況に合わせ、柔軟に対応したことを評価します。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も大佛作品の後世への継承という観点からの取組を継続して行ってください。

II 施設運営目標	評価項目 指定管理者提案(要旨)	R3年度計画		実施状況		実施状況 説明
		達成指標	目標	実績	チェック	
1 観覧及び市民・市民団体の教養活動のための施設の提供	1 観覧施設の提供	■大きな事故なく開館	実施	実施		・新型コロナウイルス感染症の影響で利用率は目標に達しませんでした。 ・電話、メールを含めレファレンス件数は目標を上回りました。
	2 和室及び会議室の積極的な貸出、レファレンス対応(広報協力、感想・ご意見の収集、ホームページでの空き状況情報提供サービス等によるレポート利用促進等)	□目標利用率 和室	30%(日)	26%	—	
		□目標利用率 会議室	38%(日)	31%	—	
		□レファレンスサービス対応数(再掲)	50件	65件	A	
3 入館者数の増	□年間入館者数	17,000人	15,987人	B		
	□一日の入館者数	57人	55人	B		
2 利用者ニーズの把握及び利用者サービスの向上、アイデアノウハウの一層の活用	4 施設貸出の御案内、撮影等の貸出利用案内強化による利用促進(貸出施設の案内、ホームページへの撮影等の利用案内の掲載等)	■メルマガ・SNSで利用案内、利用紹介	実施	実施		・記載の通り実施
	5 アンケート等による利用者ニーズの把握(和室無料公開の継続、会議室の学校関係の利用の促進、利用者へのアンケート及びインタビュー調査の実施等)	■来場者に対する紙またはWEBアンケートを実施	実施	実施		・記載の通り実施 ・来場者アンケートは、WEBアンケートに加え、緊急事態宣言が解除された10月から紙を併用しました。 ・アンケート回収率を上げるため、ノベルティプレゼントを実施 ・アンケートやインタビュー調査の結果による改善事例の該当案件はありませんでした。
		■館内スタッフに迅速なフィードバックを実施	実施	実施		
		■改善事例をホームページ、SNS等で紹介	実施	実施なし		
	6 要望・苦情への対応(要望・苦情の館内・財団・市との適切な共有と対応)	■即時対応	実施	実施		・記載の通り実施
		■館内・財団・市と共有、協議	実施	実施		
	7 案内・説明表示の外国語表記対応	■英語版案内パンフレット配布	実施	実施		・記載の通り実施
		■1Fロビーの英語表記の継続	実施	実施		
	8 展示解説や団体向け解説を実施(再掲)	□団体入館者に対する解説(再掲)	年10回以上	32回	A	・目標を上回りました。 ・緊急事態宣言中には和室で映像を用いた解説を実施。建物ミニミニトークにも事前予約制を導入
		■コロナ感染予防に則った解説環境の整備	実施	実施		
	9 Wi-Fiアクセスポイントの適切な運用	■館内Wi-Fiの利用	実施	実施		・館内Wi-Fiによる利用者サービスを継続
	10 電子マネー決済の適切な運用	■キャッシュレス決済の継続	実施	実施		・楽天ペイによる各種クレジットカード・電子マネー決済やかながわペイでの支払いを受けました。また、かながわペイのキャッシュレスキャンペーンに参加しました。
	11 施設の魅力を向上	□季節に応じた室内装飾の実施	年3回	7回	A	・通年で実施
12 オリジナル商品の開発及び図書の販売(話題性のある商品の開発・販売、一般書店では手に入りにくい図書類の販売、文庫本へのオリジナルカバー付加、通販対応の継続とホームページでのPRの実施)	□グッズ新規開発	1アイテム以上	1アイテム3種	B	・1アイテム(歌川国芳猫ポストカード3種)を猫の日に発売 ・新商品の猫グッズを猫の日に発売し、SNSで話題となりました。 ・図書の販売を継続しました。 ・POPやポスターで販売促進しました。 ・掲載書籍をSNSやブログで紹介しました。 ・大佛次郎著作や関連書籍を販売しました。展示関連図書は、分かりやすくディスプレイしました。 ・ショーケース内を随時入れ替えし、目を引くポップを掲出しました。	
	■「大佛次郎と猫」をPOPで宣伝	実施	実施			
	■一般の書店で手に入りやすい図書類を販売	実施	実施			
	■商品ディスプレイの工夫	実施	実施			
13 エントランスでの利用促進及びサービス向上の取組 大佛次郎の愛用品展示、大佛次郎の紹介映像の放映	■愛用品展示、オリジナルグッズ紹介	実施	実施			

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 和室・会議室は、新型コロナウイルス感染症予防のため新規予約停止、キャンセル料なしで利用取消を受け付けた期間があり、目標に達しませんでした。年間入館者数は、年度後半に回復傾向となり、目標に近い数字となりました。 館内装飾は季節ごとのテーマで7回・通年実施し、撮影スポットとしても楽しんでいただくことができました。 新商品の猫グッズを猫の日に発売し、SNSで話題となりました。 かながわペイのキャッシュレスキャンペーンに参加し、非接触の支払いを促進することができました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用控えの続く中でも、和室・会議室の利用率を向上させることが課題です。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策による貸室利用率が低下するなか、SNSを利用した広報の実施や撮影利用等にも対応し、貸室の利用率向上に工夫を凝らしたことを評価します。 個人情報の漏えい件数がゼロ件など、コンプライアンスをはじめとする組織運営もしっかりとなされています。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者サービス向上の視点から、きめ細やかな対応の継続及び改善検討の視点を持ち続けることを期待します。

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

II 施設運営目標	評価項目 指定管理者提案(要旨)	R3年度計画		実施状況		実施状況 説明	評価	
		達成指標	目標	実績	チェック		自己評価	行政評価
3 組織的な施設運営	14 適切な運営組織体制と人材の配置(館長1、事務職員2、研究員2、研究室補助員1、特任研究員1、専門員1、カルチャースタッフ4)	□館内会議(研究会議、合同会議、企画会議)	研究会議:月1回 合同会議:月1回 企画会議:月1回	研究会議:月1回 合同会議:月1回 企画会議:月1回	B	・記載の通り実施	【成果】 ・資料保護研修の新規開催など、職員・スタッフの集合研修や外部研修活用により、スキルの向上を行いました。 ・個人情報保護研修や会議での注意喚起を行い、個人情報事故を防ぐことができました。 ・節電、節水について、温度設定の見直しやポスターなどの掲示といったハードソフト両面の対策を行いました。 【課題】 ・引き続き各種研修を実施していきます。	(評価は前ページに記載)
	15 文学館の専門性、公共の施設として適切な人員を配置。職員の能力向上のため、研修を実施。(OJT、MBO、財団・市実施の研修、外部研修への参加)	■業務として必要な専門知識向上や資格取得のため、費用対効果も見極めながら、積極的な受講・取得を推進	実施	実施		・記載の通り実施 ・集合研修:コンプライアンス研修3回、人権研修、資料保護研修、ピブリオバトル研修、危機管理研修、新採用研修 研修参加:アサーション研修、ダイバーシティ研修、SDGs研修、広報研修、著作権研修、アーカイブ研修		
	■展覧会の企画立案、資料等の研究・整理等の能力を有する職員を研究室に配置	配置	配置					
16 事務室、研究室共通業務に必要な資格取得に向けたバックアップの実施	■全国文学館協議会会議に参加し、文学館同士の情報共有・連携強化の実施	実施	実施					
4 個人情報保護等、本市の重要施策を踏まえた取組	個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施 (1)個人情報保護 個人情報取扱マニュアルの作成と年1回以上の改定・見直し及び職場内研修の実施、個人情報の適切な取り扱いによる事故防止	■個人情報漏洩などに関する事故	0件	0件	B	・事故0件		
	(2)情報公開	■業務計画書・報告書、収支報告書のホームページでの公開を実施し、PDFのダウンロード可能に	実施	実施		・記載の通り実施		
	(3)人権尊重 横浜市主催の人権講演会への職員の参加、職場内研修の実施、受付職員を対象とした接客研修の毎年度の実施	□人権研修への参加	年1回	1回	B	・全職員・スタッフを対象とした集合型の人権研修を実施		
	(4)省エネルギー・節電 節電への取組、クールビズ及びウォームビズの実施と来館者への取組周知	■節電、節水を常に意識	実施	実施		・記載の通り実施		
	(5)ごみ 「ヨコハマ3R夢プラン」に基づく取組の実施、ごみの軽減の取組、印刷・コピーの適切な節制、文書の適切な処分	■印刷・コピーの裏紙利用による古紙の減量化	実施	実施		・記載の通り実施		
		■裏紙の適切な利用と裏紙ストック箱の設置 ■ゴミ減量を視野にいれた展示方法の模索	実施	実施				
(6)市内中小企業優先発注 特別な専門性が必要な契約等を除く発注の市内中小企業への優先	■特別な専門性が必要な契約等を除く発注についての市内中小企業への発注への努力	実施	実施					

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

Ⅲ維持管理目標	評価項目 指定管理者提案(要旨)	R3年度計画		実施状況		実施状況 説明
		達成指標	目標	実績	チェック	
1 施設及び設備の維持保全及び管理	1 施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	■施設運営に支障がでないよう管理	実施	実施		・記載の通り実施
		■建設40年以上経過し、建物、設備、備品に劣化が進んでいるので、問題箇所への目配りを強化	実施	実施		・荒天予報時には、窓回りにタオルを設置するなど雨漏り対策を実施
		■来館者の安全と収蔵資料の保全を優先し修繕を実施	実施	実施		・非常用蓄電池の交換、非常口扉調整等建具工事、給湯室給排水設備修繕、空調機修理、ティールーム霧笛の漏電に伴う改修工事(配線部の経年劣化に伴う絶縁不良解消)を実施
		■必要に応じ市と協議	実施	実施		・記載の通り実施
	2 保守点検、備品管理、環境維持の実施 (1)備品の物品管理簿での管理、年度末の棚卸の実施等の実施による適切な管理 (2)消耗品の適切な管理・購入による経費節減と発注事務の軽減 (3)大佛次郎遺品類及び関係資料の適切な管理(日常的な確認・点検の実施)	□物品管理簿と現品との照合による棚卸	年1回	1回	B	・記載の通り実施
		■在庫管理	実施	実施		
		□開館日の点検、記録、調整の実施	日2回	日2回	B	
		■特別書庫内使用の出入庫表への記録	実施	実施		
		□IPMIによる環境管理(再掲)	年2回	年2回	B	
		□資料整理	月1回	月1回	B	
	(4)施設設備の不具合早期発見のための自主点検の実施	□資料修復実施(再掲)	1点	修復に代えて資料の状態を保持するための資材を充実		
		□不具合早期発見のため自主点検	月1回	月1回	B	
3 適切な環境維持管理業務の実施 (1)業務の基準の遵守及び見回りによる清掃の即時対応の実施 (2)公園の管理区域内の環境維持、公園管理者との連絡調整	■自主点検内容の財団事務局との情報共有	実施	実施		・記載の通り実施 ・雨樋の落ち葉詰まり解消清掃、ネット設置 ・自主点検では、ティールームを含め施設の安全や利用者に関係する事項、資料保全に関わる事項を特に重点的に確認しました	
	□清掃状況の点検	日1回	日1回	B		
2 小破修繕の着実な実行	4 小破修繕の取組 (日常点検で把握した故障等への都度対応による修繕費等の支出抑制、財団のサポートによる効果的・効率的な修繕の実施)	□管理区域内の植栽 必要により剪定	必要により判断	実施		
		■随時実施	随時実施	随時実施		・記載の通り実施
		□不具合早期発見のため自主点検(再掲)	月1回	月1回	B	
		■修繕等の実施に際しての横浜市と情報共有し、迅速な対応の実施	実施	実施		
		■横浜市との情報共有(再掲)	実施	実施		

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常点検や不具合の初期対応により、施設運営に支障がでないよう管理することができました。 ・感染症予防に留意し、施設運営を継続することができました。 ・防災訓練では、シェイクアウト、初期消火、通報、避難誘導、救急救命訓練を実施。中消防署員による救急救命講習を職員・スタッフ全員が受講しました。 <p>【課題】</p> <p>築40年以上経過して劣化が進行しているため、引き続き横浜市と密に状況を共有します。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年を通じて、施設及び設備のきめ細やかな管理を行い、適切に業務を遂行できました。 ・経年劣化による設備等の修繕や、点検等を適切に行いました。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特筆すべき事項なし。引き続き良好な施設の維持管理に努めてください。

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

Ⅲ維持管理目標	評価項目 指定管理者提案(要旨)	R3年度計画		実施状況		実施状況 説明	評価	
		達成指標	目標	実績	チェック		自己評価	行政評価
3 事故予防及び緊急時の対応	事故防止体制・防犯、緊急時の対応・感染症対策等衛生管理の実施 (1)全体管理について	■施設運営に支障がでないよう管理	実施	実施		・記載の通り実施 ・共用物品は使用の都度消毒、休憩場所と時間の分散取得、黙食の徹底など、職員の感染予防に留意しました ・緊急事態宣言、まん延防止等重点措置期間中には、施設を開館しながら可能な範囲で財団が所持するリモートツールを用いて在宅勤務を併用しました。	自己評価	行政評価 (評価は前ページに記載)
	(2)危機管理マニュアルの整備と必要に応じた改訂	■改定マニュアルを整備し共有	実施	実施				
	(3)職員及びカルチャースタッフによる館内の見回り・点検の実施	□館内巡回	1日4回	1日4回	B			
	(4)インフルエンザ流行時のポスター掲示、鳥インフルエンザへの留意、ノロウイルス対応の準備と2次感染防止策の徹底	■アルコール消毒液と石鹸の備え置き	実施	実施				
		■コロナウイルス感染症予防のための施設の消毒	必要により実施	実施				
	(5)緊急時の連絡体制 財団事務職員の必要に応じた派遣、関係各所との緊急連絡網の作成と緊急時の速やかな報告・相談の実施	■緊急連絡網の備え置き	実施	実施				
(6)AED設置及び研修 消耗品等の定期的な更新・交換、財団主催の操作研修への全員参加	■スタッフ全員が研修受講済みの状態	実施	実施					
4 防災に対する取組	日常の取組、危機管理マニュアルの整備、防火・防災の取組、災害備蓄等の実施 (1)危機管理マニュアルの適宜見直し及び改訂	■改定マニュアルを整備し共有(再掲)	実施	実施		記載の通り実施	自己評価	行政評価
	(2)避難訓練 自衛消防組織の結成、防災計画の作成、危機管理マニュアルに基づく年2回の避難訓練の実施	□防災訓練	年2回	年2回	B			
	(3)緊急事態に備えた飲料水、非常食、毛布等の備蓄	■備蓄管理	実施	実施				

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

IV収支	評価項目 指定管理者提案(要旨)	R3年度計画		実施状況		実施状況 説明	
		達成指標	目標	実績	チェック		
1 適切な収支構造及び収支バランス	適切な収支構造及び収支バランス	■緊急性・必要性の高い事案から執行 ■収支計画に準じて、適切な収支管理を行う	実施	実施		・経費執行にあたっては、緊急性・必要性を鑑みて支出の優先順位を付け、収入の状況を確認しながら経費を執行 ・補助金獲得2件 文化庁ARTS for the future!、文化庁感染拡大予防・活動支援環境整備事業	
		■助成金等獲得	検討	補助金2件獲得			
2 指定管理料にのみ依存しない収入構造	指定管理料のみに依存しない収入確保の取組 (1)利用料金収入の確保 有料入館者増に向けた取組の実施	■「大佛次郎×ねこ写真展2022」の開催による冬季有料入館者増	実施	実施		・記載の通り実施 ・記載の通り実施 ・助成金申請3件中、2件採択 ・「パリ・コミュニケーション150年 大佛次郎記念館カリカチュアコレクション」開催にあたり、事業分担金を得ました。 ・テーマ展示協賛・寄附:2件、よこはまシニアボランティアポイント事業による寄付金 ・感染拡大が落ち着いた時期には売り上げが復調し、新商品の効果と相まって目標を上回りました	
		■SNSによる施設利用例の広報	実施	実施			
		(2)おさらぎ選書への広告掲載、企画展の協賛					
		(3)企画展への協賛依頼、助成金への積極的な応募	■助成金等獲得(再掲)	検討	助成金2件獲得		
	(4)ショップ売上目標の設定	□目標金額	600,000円	856,726円	A		
3 経費削減及び効率的運営努力	経費削減等効果的運営の努力 (1)発注、事務処理上の留意点 契約にかかる経費削減、支払い時の事務処理時間及び振込手数料の削減、計画的な発送処理による作業時間及び郵送経費の削減、廃棄物の削減 (2)施設、設備管理上の留意点 早期対応による設備の長寿命化の実現と修繕費の節制 省エネルギーのための取組と光熱費の節減(管理費の多くを占めている光熱水費を節約することで、コストの削減につなげる) (3)コスト意識 職員の超過勤務削減、業務分担の平準化、業務の外注化等の促進、効率的で適切な勤務体制の実施	■適正な在庫管理	実施	実施		・記載の通り実施	
		■節電・節水の意識 (指標:使用量前年度比)	実施	実施			
		■労務管理を適切に行い、超勤時間の削減を図る	実施	実施			
		■労基法に則った有給取得の促進	実施	実施			
		■経費執行状況について情報共有	実施	実施			

評価	
自己評価	行政評価
【成果】 ・経費執行にあたっては、緊急性・必要性を鑑みて支出の優先順位を付けました。新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、収入の状況を確認しながら経費を執行することで、収支のバランスを図りました。 ・大佛次郎×ねこ写真展2022が2022年2月22日文化庁ARTS for the future!、文化庁感染拡大予防・活動支援環境整備事業 ・協賛や寄附、さらに助成金申請3件中、2件採択されました。また、「パリ・コミュニケーション150年 大佛次郎記念館カリカチュアコレクション」開催にあたり、事業分担金を得ました。これにより事業や施設運営を充実させることができました。	【評価できる点】 ・全体を通じて、良好な収支バランスを達成できました。 ・計画以上の補助金及び事業負担金を獲得した点について評価します。 【より一層の取組を期待する点】 ・8月～9月にコロナ感染拡大防止策として新規利用予約申込受付停止の期間がありましたが、収支差額に大きなマイナスは発生しませんでした。今後も効率的な資金計画を立て、収支のバランスに配慮した予算執行に努めてください。
【課題】 引き続き、助成金獲得を目指します	

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画	実施状況	実施状況
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	説明	説明

評価	
自己評価	行政評価
<p>新型コロナウイルス感染症の影響が続き、制約のある中でも、資料の適切な収集、保管、公開、活用を通じ、作家と作品について後世に伝えていくミッションに取り組みました。各機関との関係性を構築し、教育機関との新たな連携による読書活動推進、専門機関との連携による外部会場での所蔵資料展示を実現させました。積極的な誘客や利用促進が難しい期間においても、WEBによる展示内容や大佛作品の発信を積極的に行いました。また、新デジタルアーカイブの構想を固め準備を具体化するなど、指定管理第二期に向けて第一歩を踏み出しました。</p> <p>①文化事業について 3回のテーマ展示「これぞ！大佛(おさらぎ)歌舞伎」、パリ・コミュニケーション150年記念「パリ燃ゆ〜名もなき者たちの声」、写し、写された大佛次郎「文士は必ずカメラを持って」は、テーマ性を前面に出し、大佛次郎や文学愛好家にとどまらず、歌舞伎、歴史、写真それぞれの関心層に訴える展示を行うことで、大佛と大佛作品の幅広い魅力を伝えるとともに、新たな客層を呼び込むことができました。資料が伝える時代の空気や物語が感じられるような展示作りを心がけ、観覧者アンケートには展示を興味深く見たとの声が多数ありました。</p> <p>文化庁「ARTS for the future!」の助成獲得により資料約1,000点のデジタル化とデジタルサイネージでの画像公開を初めて行うなど充実を図るとともに、日仏会館・フランス国立日本研究所との共催により日仏会館での「パリ・コミュニケーション150年 大佛次郎記念館カリカチュアコレクション」を初開催するなど、積極的に事業を展開しました。</p> <p>広報に力を入れ、記者発表回数、ホームページ・ブログ・SNS発信回数はいずれも目標を大きく上回り、新聞掲載やTV・ラジオからの情報発信につながりました。新型コロナウイルス感染症のため、近隣施設との連携は中止・縮小が相次ぎました。そのような状況下でも若い世代へのアプローチを強化し、女子美術大学附属中学校2年生による挿絵「猫のいる日々」展示、横浜市芸術文化教育プラットフォーム教育プログラム、ねこクイズ等の「夏休みお楽しみキャンペーン」を新規に実施しました。</p> <p>②施設運営について 館内装飾の通年実施、レファレンスサービス、職員研修の充実などお客様満足度の向上に努めました。来館者は、緊急事態宣言が解除された10月以降徐々に回復しましたが、年間来館者数、和室・会議室利用率とも目標に達しませんでした。団体入館者への解説は、映像を用いた解説など新型コロナウイルス感染症拡大予防に留意しながら実施し、32回と目標を上回りました。</p> <p>③施設管理について 施設設備の不具合を早期に発見・対処するため、日々の巡回や自主点検、荒天時対応を行いました。安全と収蔵資料の保全を最優先に、消防設備の修繕実施、資料を適切に保存するための資材を追加しました。文化庁感染拡大予防・活動支援環境整備事業補助金を得て、検温器の新設など感染対策を着実に進めました。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、感染症対策を講じながらの運営となりました。温室度管理等、展示環境に配慮しながら換気を行う等文学館という施設の特性を考慮した対応や、感染状況に合わせた企画の実施が、安定した施設運営につながりました。</p> <p>文化事業においては、ウェブブログやSNSを通じた情報発信、YouTubeでの展示解説公開を継続するなどウェブ上での情報公開を積極的に行いました。さらに、実展示についても工夫を凝らした内容となりました。オリジナル動画の制作や、ロビーで女子美術大学附属中学校との連携事業の作品展示を行う等新しい取組を行いました。また、例年開催しているねこ写真展についても、子ども部門を設ける等、応募者、観覧者共に楽しめるよう内容を深化させました。ウェブ上でのコンタクトツールを充実させるとともに実展示やイベント等の事業についても新たなアイデアを取り入れた点を評価します。</p> <p>また、地域団体や他施設との連携を継続した点を評価します。他施設と連携した大人ビブリオバトルのオンライン開催に加えて学生向けのビブリオバトルを継続して開催しました。連携を深めるとともに事業の幅が広がった点を評価します。</p> <p>施設運営・管理においては、持続可能な施設運営に取り組んだ点を評価します。経年劣化による設備等の不具合を防ぐべく定期的な点検等を適宜実施し、突発的な修繕についても適切に対応し、安定的な施設運営を行いました。</p> <p>次年度も、新型コロナウイルス感染症に係る影響により、対策を講じながらの運営となることが想定されます。ウェブ上での鑑賞環境を整えながら企画展等の事業を利用者が楽しめるような多彩なアイデアを取り入れた事業を引き続き実施してください。今後も大佛という作家の魅力を多くの人に伝え、後世に残していくという施設の使命に資する取組に期待します。</p>